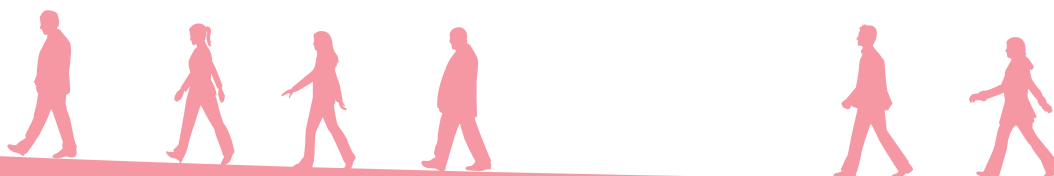


ふるさと 西高屋を歩く



高屋西小・小学校区住民自治協議会

西高屋史跡案内看板設置場所 (1~61)



1	白鳥神社と白鳥古墳跡
2	白鳥山系縦断道出入口
3	白鳥神社参道郷口
4	白鳥神社参道宮領口
5	小寺池堤防改修記念碑 (天保)
6	白鳥神社下馬石碑
7	小寺池災害復旧抜築記念
8	白鳥神社標柱
9	採石場 (岩盤露頭)
10	室町時代の水牢跡
11	山田氏屋敷石垣の亀甲石
12	架橋記念碑
13	羽休の松跡 (白鳥伝説)
14	白鳥神社鳥居 (宝暦七)
15	白鳥社丁石 (十五丁) (安政七)
16	貞政橋
17	白鳥社廿六丁
18	南氏屋敷跡の石垣 (中世)
19	西品寺境内の石槽 (行賢)
20	引き込み線橋脚跡
21	昭和隧道出口
22	木原松桂翁頌徳碑
23	有田温三翁銅像古跡之碑
24	山田英三翁の碑

25	凱旋記念碑
26	運動場竣工記念碑
27	尋常小学校石門扉
28	中島1号遺跡の出土跡
29	昭和隧道入口
30	宮領大畠耕地整理記念碑
31	西条層の露頭
32	新宮神社
33	力善観音堂
34	石燈籠 (時成八幡神社再建記念)
35	松山の薬師堂と薬師丸古墓
36	松山備前の墓
37	天神神社
38	時成八幡神社
39	木原源左衛門之墓
40	清観古墓
41	大畠の行賢遺跡

42	古慈喜城跡
43	巨大神殿跡・西本6号遺跡
44	行賢遺跡 (不動明王立像 他)
45	解剖碑と西福寺の鉢石
46	西八幡神社
47	門前古墓 (慶長福寺跡)
48	行賢遺跡 (地藏菩薩立像や供養碑)
49	杉森八幡神社
50	梵字岩
51	旧今井家屋敷跡と川底の敷石

52	壬生忠見歌碑
53	楽市八幡神社
54	増原翁之碑
55	千人塚古墳
56	柳田安巳先生の碑
57	杵原正原の薬師堂
58	巴神社
59	溝口尋常小学校跡
60	郷・阿弥陀堂跡
61	貴船神社



はじめに ～ふるさと西高屋を歩く～

1、現況

東広島市高屋町は、地形的に見てもその美しい盆地の中にあって、弥生時代以来二千年に亘り人々の生活がゆっくりと営まれてきた地域です。その永く穏やかで静かに流れてきた歴史と、その中で育まれてきた文化と伝統を背景にして、今の私たちは生活することができます。

私たち自身を振り返るとき、このふるさとの風土や歴史を顧みないわけにはいきません。

無意識に見ている山や川あるいは昔ながらの小道のある風景、また忙しい日々の中で見過ごしている近くの隠れた遺跡や忘れかけている古い道標や路傍にたたくお地蔵さんなど、意外にも私たちの周辺にはその意味や由来について知らないことがたくさんあることに驚きます。現代の生活は、便利さと快適さ、さらにスピードや安全を求め続けるばかりで、かつての静かで穏やかな地域の暮らしは、その力に押されて顧みられることが少なくなり、やがては忘れ去られようとしています。

2、計画

私たちは、上記の現況をとっても憂えています。先人達がこの地で暮らしながら築いてきた知恵や工夫の数々を、あるいは祈りの場所を、私たちは記憶から消し去ってはいけません。さらには次の世代に語り続けるためにも、今私たちは行動を起こさなければいけないと考えました。

その行動計画の一つは、【たかや発見】の活動でした。自分たち自身をもっといろいろなことを知ることです。歴史・文化・伝承・現在起こっていることなどを文献資料や聞き取りを通して勉強することです。さらに、現地を歩いて、見て、写真を撮り、記録していく活動です。神社や寺院はもちろん、石碑、城跡、遺跡や昔の道、山や川、伝説の場所などを確認しながら歩き回ることでした。

その二つは、【たかや発信】の活動です。それは、各地区を記録した写真を中心に、紹介文や地図を付けた散策コース案内の小冊子を作成することでした。

このようにしてできた高屋案内の小冊子は、より多くの住民の方、高屋西小学校区住民自治協議会や学校などに無料配布したいと考えました。

そしてこの活動をきっかけとして、親が子に、祖父母が孫に語り聞かせるような「古里の語り部」がたくさん生まれてくることを夢見ています。

どうかこのような私たちの意をお汲み取りいただき、この小冊子を活用していただければ幸いです。

2014年（平成26年）3月（初版発行）

ディスカバー高屋 代表 井上泰秀
（高屋西小学校区住民自治協議会副会長）

注）今回の小冊子は、西高屋から始めたもので高屋町全域を網羅してはいないことをお断りしておきます。



目 次 CONTENTS

はじめに

目 次

1	道標めぐり（楽しみ処解説）	3
	コース順の地図	4
	コース内の見どころ写真	5
2	大畠山寄りを歩く（上に全）	7
	コース順の地図	8
	コース内の見どころ写真	9
3	中島・高美が丘・杵原を歩く	11
	コース順の地図	12
	コース内の見どころ写真	13
4	杵原から旧 375 号国道沿いを歩く	15
	コース順の地図	16
	コース内の見どころ写真	17
5	中島・宮領を歩く	19
	コース順の地図	20
	コース内の見どころ写真	21
6	中島にある学校 3 校めぐり	23
	コース順の地図	24
	コース内の見どころ写真	25
7	郷・溝口を歩く	27
	コース順の地図	28
	コース内の見どころ写真	29
8	桧山・稲木めぐり	31
	コース順の地図	32
	コース内の見どころ写真	33
9	白鳥登山と白鳥神社	36
	コース順の地図	37
	コース内の見どころ写真	38
10	宮領・桧山を歩く	41
	コース順の地図	42
	コース内の見どころ写真	43
付記	ー原始、古代、中世の西高屋を概略しておきましょうー	45
年表	ー大炊寮領「高屋保」の変遷ー	49
付録	ー黄色の看板を発見！西高屋に 61 カ所設置ー	54
資料	ー西高屋をもっと知るためにー	64
おわりに		83



1. 道標めぐり

コース案内 **1**～**10**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 5 km

【楽しみ処】

昔の人々が、「白鳥神社」への参道を祈りながら歩いた道をたどる。

ただしこのコースは、白鳥神社の山頂には行かない。

入野川から南へ進んで、白鳥山の山麓を山陽道の側道に沿って歩いて帰ってくるコースである。

路傍には神社までの距離をあらわす「丁石」^{ちやういし}が立ててある。それを探しながら歩いてみよう。(1丁=約109m)さていくつの丁石を見つかることができるだろうか。現在残っている最も遠距離にあるのが、「廿六丁」と書かれた丁石である。入野川の古土井橋のたもとに転がっている。

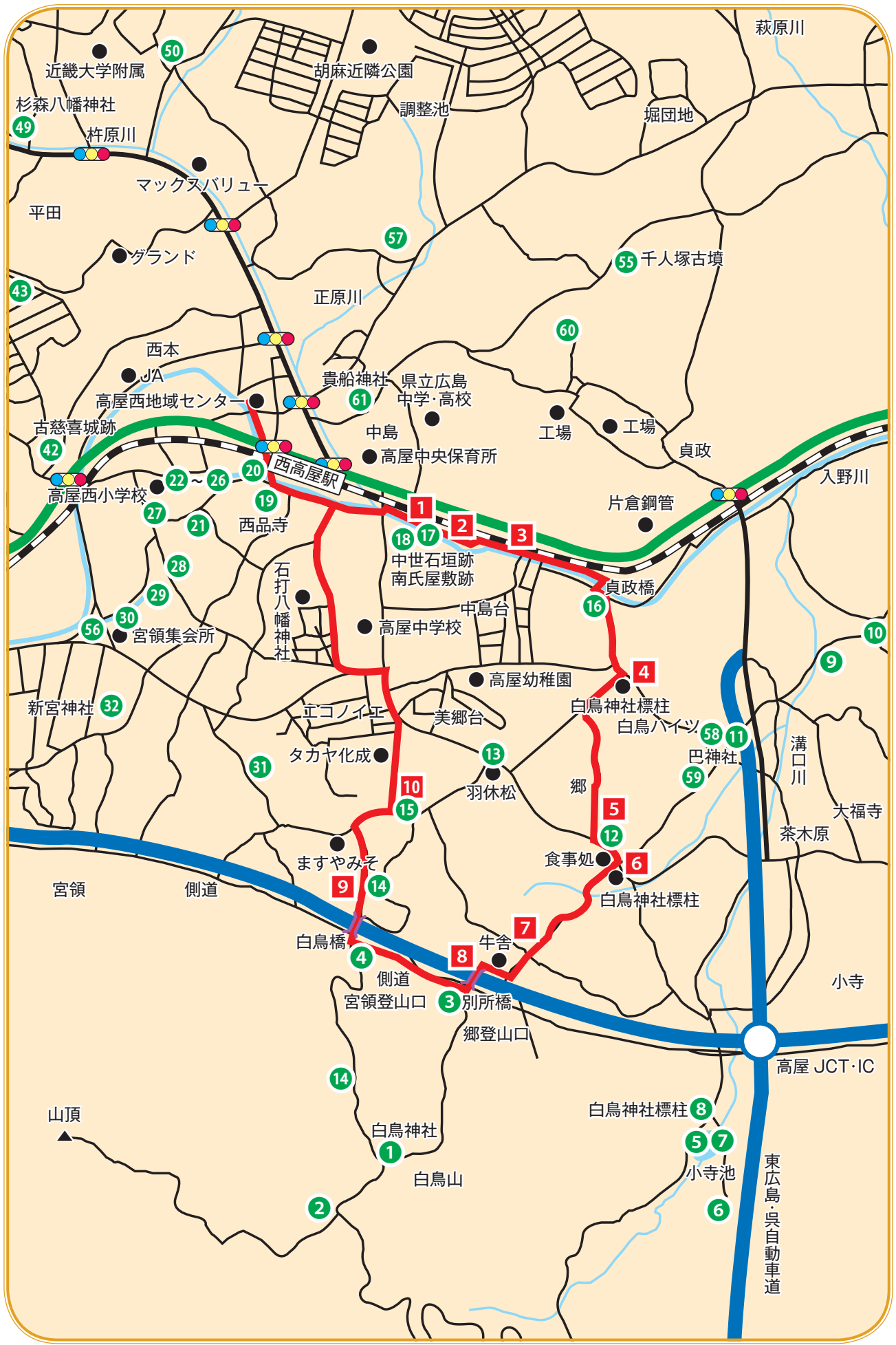
この古土井橋を渡った突き当りには、鎌倉時代以前からこの地を治めていた豪族「南氏」の屋敷跡といわれている所に石罫（石垣）が残っている。その後この屋敷に住んでいる方が白鳥神社に多くの土地を寄進されており、おそらくこの場所が白鳥神社参道の出発地点になったのではないかと推測される。

【白鳥神社】

白鳥山の山頂にあり、祭神は日本武尊を主神とする10神。旧郡社。縁起によると、日本武尊が死後白鳥となって飛来し、当山頂まで来て姿を消したという。鎌倉時代の「安芸国神名帳」は、安芸国の一宮は巖島神社で各郡に郡社（二宮）があり、賀茂郡では最高位の神社を白鳥明神としている。この神社は「白鳥古墳」の上に建てられていて、三角縁獣鏡・直刀・勾玉などが出土した。その被葬者は4世紀後半の大和朝廷と関わりのあるこの地方の首長と見られている。



1. 道標めぐりコース案内 1~10



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 白鳥社廿六丁石



県道（東広島本郷線）より高屋中学校へ向かう杵原踏切を渡り、すぐ川沿いを左折した所に古土井橋がある。この橋を渡った所に「南家屋敷跡」と「中世の石垣（石塁）」が残っている。

2 白鳥社廿五丁石



入野川沿いにひっそりと建っている。（平成25年初頭の河川工事で若干移動している。）

3 道標



郷の扇迫橋手前にあった。

4 白鳥神社標柱



道路進行方向の正面の山が「白鳥山」である。山頂まで一、六km。

5 架橋記念碑



十三丁の道標が架橋記念碑のそばにあったが、ここには川もなく、当然橋もなく、何の架橋記念碑なのか長年の謎であった。実は日露戦争当時、西条の原村に駐屯していた軍隊が宮領を通過して郷まで行軍してきたが、入野川に橋がかかっていなかったため現在の貞政橋の所に架橋し、渡った所から南側に向けて射撃訓練をしたそうだ。そのため郷村の人は往来が楽になり、感謝の意味で架橋記念碑を建立したのだが、いつの日かその記念碑が現在の場所に移されたという話だ。



5 拾三丁石



いよいよ白鳥神社の歩道入り口。右側には江戸時代の割庄屋であった有田家の屋敷がある。有田温三氏寄進。

8 放牧場



9 白鳥神社鳥居



240年前に建てられたもの。宮領から登ってくる（ますやみそ横の道を登る）元参道の鳥居。

宝暦7年（1757年）、高屋邑氏子の寄進。

6 史跡指定の看板



白鳥神社の由来が書いてある。

7 七丁石



山陽自動車道近く。

10 拾五丁石



「安政七年白鳥十五丁」願主杵原村今井久太郎兼綱。郷と宮領を結ぶ道（タカヤ化成南側）沿いにある。



2. 大畠の山寄りを歩く

コース案内 **1**～**6**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 5 km

【楽しみ処】

大畠北側の丘陵地に広がる山林地帯に入ると、すぐに地元の人々のお墓が多く並んでいる。一番奥にひととき大きく古い墓がある。木原源左衛門の墓である。木原源左衛門は、13世紀末に地頭として高屋に来た平賀家の15代目当主白山城主平賀弘保の弟 木原保成（1562年没）（木原城主）の長子であるが、故あってこの大畠に蟄居させられ没した。

この墓は源左衛門の玄孫が寛延三（1750）年に建立したものだ。

御藪宇城主平賀弘宗（13代）の弟 宗仲が大畠氏を名乗り、1450年前後にすでにこの地に入っており、平賀氏の勢力が及んでいたものと思われる。

江戸時代になると、源左衛門の子孫は白市にいて、木原屋、大文字屋、沼田屋などの祖先に当たると言われていて、その後の白市の隆盛を極める人たちである。

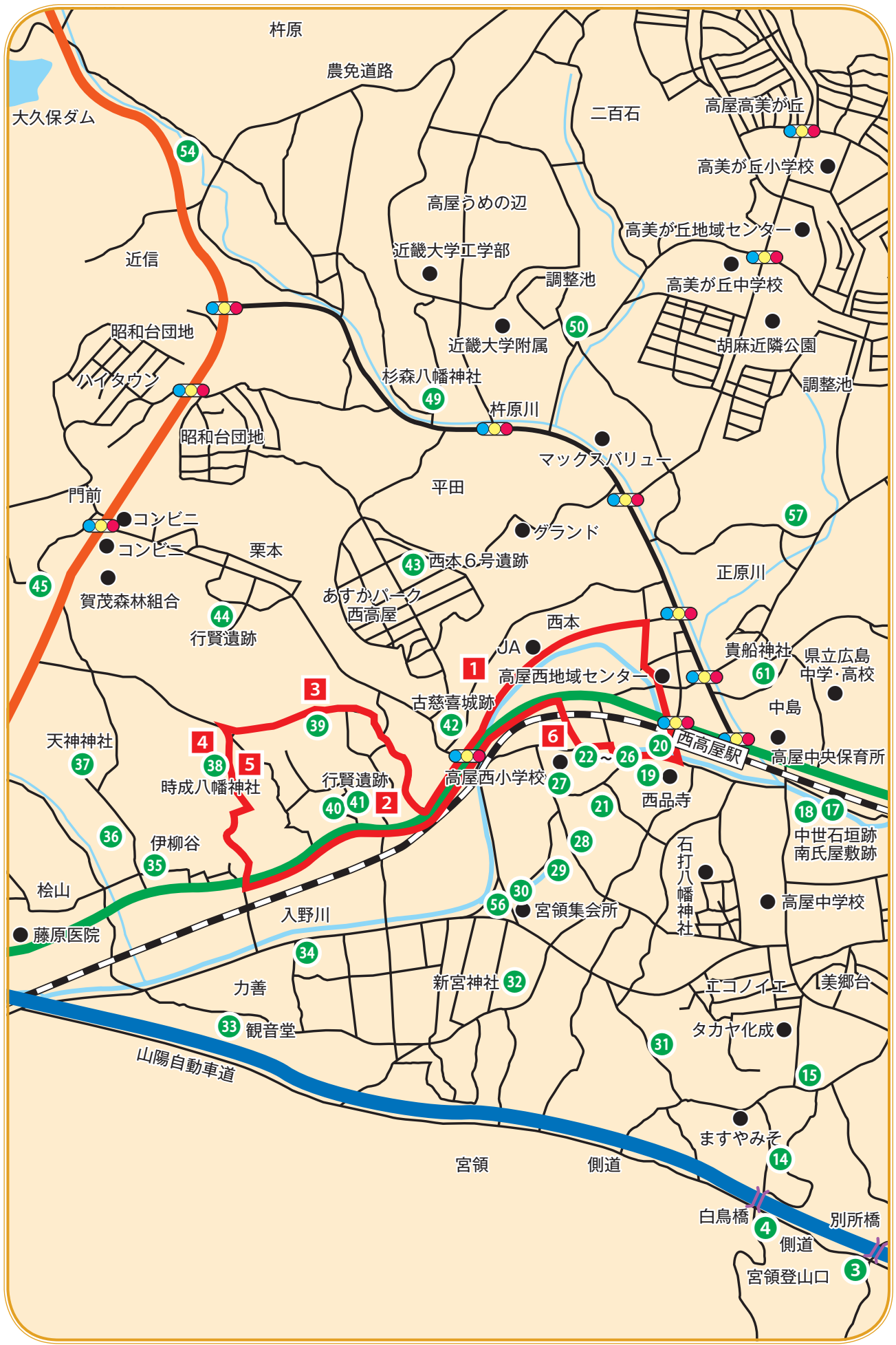
山道を尾根沿いに進むと、時成八幡神社の裏側に到達する。南側に参道を下りて県道を東へ進む。県道の途中、民家の石垣の中に梵字を刻んだ上下に2基、その下に暦応三（1340年）行賢の銘が入った石碑がある。

行賢はこの時期（1321～1340年頃まで）、稲木を中心に板碑という石碑を多く残している。時成神社の東側には、平賀氏が高屋に入ってくる以前からいた在地の豪族南氏の菩提寺といわれる大徳寺があったといわれている。大徳寺跡は藝藩通志にも記されている。行賢と南氏は何らかの交流があったのかもしれない。

高屋西小学校の正門前には五つの記念碑や頌徳碑があり、西高屋の先人の業績を偲ぶことができる。この中でも特に「木原松桂翁之碑」には、幕末の長州で活躍した吉田松陰に影響を与えた人として知られていることが刻銘されている。他に「有田温三翁銅像古跡之墓」「山田英三翁の碑」「明治二十八年戦没 明治三十三年清国事變凱旋記念碑」「運動場竣工記念碑」「二宮尊徳翁」などが設置されている。



2. 大畠の山寄りを歩くコース案内 1~6



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 木原（旧檜山）松桂生家（杵原）



左上に古慈喜城跡がある（室町時代）。木原松桂翁は、長年行方不明になった母親を探し歩き、ついに米子で見つけた。親孝行の話は長州の吉田松陰にも影響を与えたといわれている。

2 杵築大明神（大島）



メルポの下の所にある。1間社の小さな神社。（大島）

3 木原源左衛門の墓（大島）



木原源左衛門は高屋東木原城主木原保成の長子であったが、故あつてちっ居させられ、大島に没した。子孫は、白市の豪商。

4 時成八幡神社（1）（大島）



神社の中に大島から見えたキノコ雲（原爆投下時）の写真がある。ぜひ見ていただきたい。時成神社を少し降りたところに大徳寺跡がある。（南氏菩提寺）

時成八幡神社（2）



時成八幡神社から南の参道



5 廃大徳寺跡（大畠）



日山氏所有地の竹やぶに古いお墓が残っている。足元には注意が必要。訪れた時は、梨と桃の花がきれいに咲いていた。

山田英三頌徳碑（2）



西高屋小学校正門前にある。山田氏は、1876年（明治9年）、溝口生まれ。電気事業成功者。

凱旋記念碑（3）



高屋西小学校正門前にある。明治27年8月日清戦争。明治33年北清事変の記念碑。手前の苔むした楕円形の石は、通称「恨石」。左奥には「有田温三の頌徳碑」が見える。

6 記念碑・頌徳碑（中島）

木原松桂頌徳碑（1）



高屋西小学校正門前にある。吉田松陰に影響を与えた「木原松桂翁の碑」

位置を示す石（4）



高屋西小学校正門を入ってすぐの二宮金次郎像のそばにある。



3. 中島・高美が丘・ 杵原を歩く

コース案内 **1**~**5**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約6 km

【楽しみ処】

中島の貴船神社から杵原の胡麻谷を上り、高美が丘3丁目西側の調整池のそばを通り4丁目、きつつき通り、近大通りを抜けて楽市八幡神社まで行く。楽市八幡神社の北側の農免道沿いのアスパラガス畑の一面に往時の足山を詠った歌碑が建立されている。

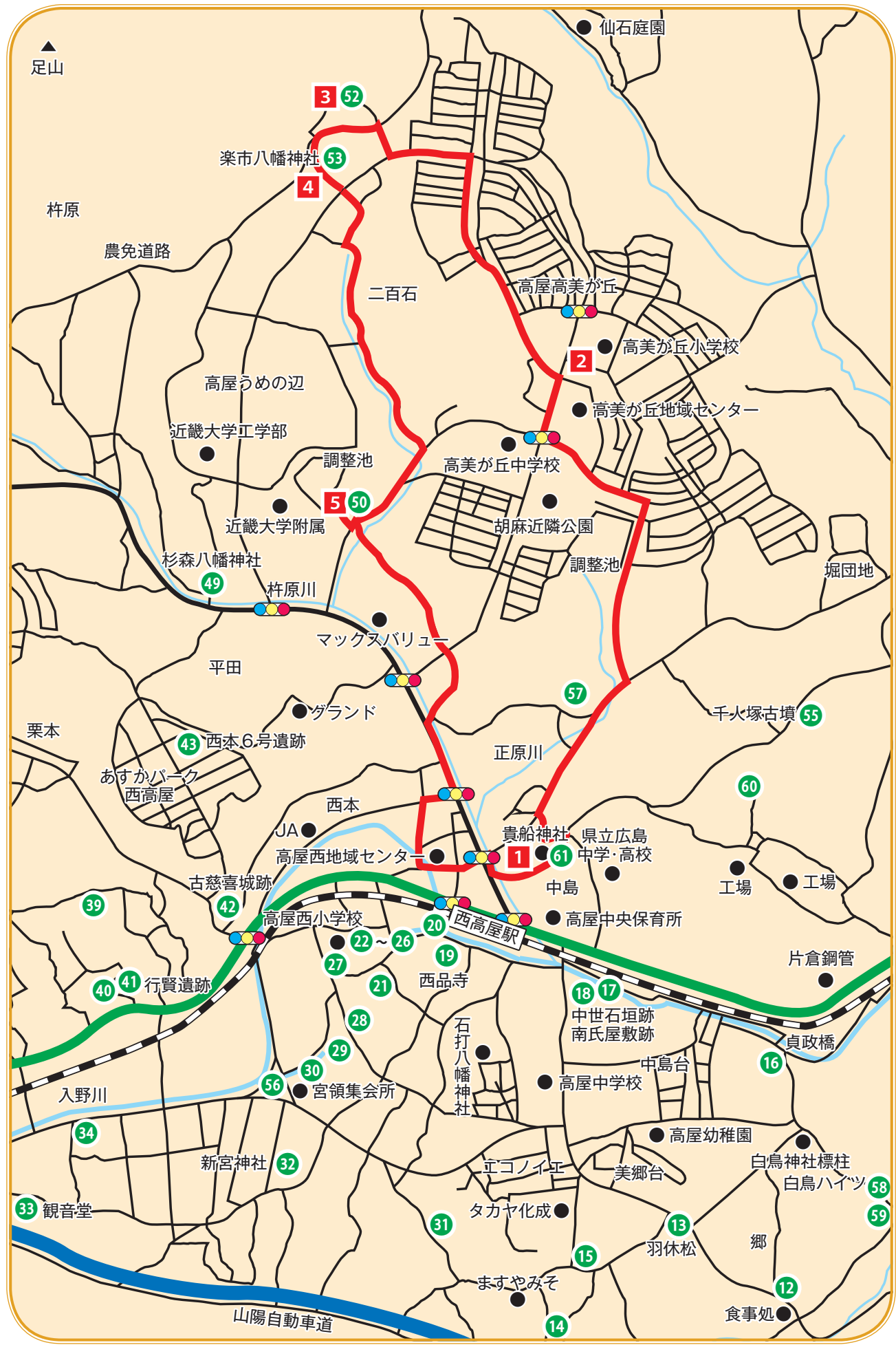
平安時代の歌人である壬生忠見^{みぶのただみ}が、都から筑紫の国に下る際に安芸国で雨に降られ、この足山を歌ったものであることをこの碑は伝えている。忠見の父は壬生忠岑(みぶのただみね)で父子ともに三十六歌仙に入っている。

楽市八幡神社から杵原の二百石谷を下り、梵字岩^{ぼんじいわ}に至る。平賀氏が戦国大名の大内氏と尼子氏の狭間で苦しんでいた頃、平賀氏の一族である重臣^{みよりい みつやす}名井光叶の兄光秀が自刃したところと言われている(1530年)。この梵字岩は、その供養のためのものだろう。

貴船神社は、京都の止水祈水の神である貴船神社の分祀である。排水が悪い低湿地と雨が少ない干害で苦勞していた昔の高屋の人々は、水の神である貴布禰大明神を勧請して祈ったということもよくわかる気がする。



3. 中島・高美が丘・杵原を歩くコース案内 1~5



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 貴船神社（1）（中島）



水の神様、恋愛の神様、道案内受験の神様だそうです。
境内南の道は、白市に抜ける古い道である。
秋まつり（九月）が賑やかにあるらしいので、またその時期に訪れてみたい。新緑もきれいであった。
トイレ有。

貴船神社（2）



本殿は、平成23年9月に改築され、新しくなった

貴船神社（3）



平成23年末、由来碑建立。

2 焼却場跡（元賀茂ダストセンター跡）（高美が丘）



現在の高美が丘小学校グラウンド。
公害防止の工事が行われ、危険性は回避された。
高美が丘は、30年前は山林であった。
造成され大きな団地となった。

3 平安歌人（壬生忠見）と安志の山（杵原二百石）





4 楽市八幡神社 (杵原二百石)



楽市とは、自由な市があったという意味だが、ここでは不明。

境内の右奥に巨木がある。幹は、大人4～5人分の大きさである。

5 ほんじいわ 梵字岩の由来 (杵原)

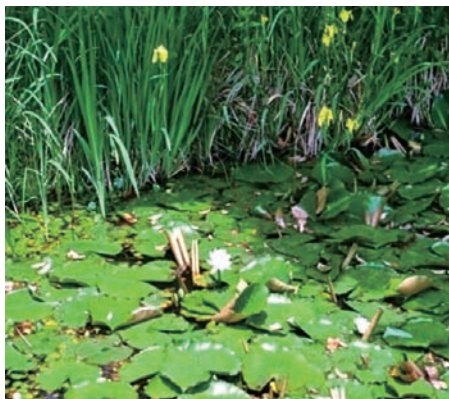


5 梵字岩



金剛界大日、胎藏界大日の種子が並んで彫られている。

平賀氏の家臣名井光叶（みょういみつやす）の兄光秀自刃の場所と言われている（1530年）。



前の池に菖蒲や睡蓮の花が咲き、きれいであった。